

# 令和2年度 町政懇話会の対応方針等【町民文化センター】

貴重なご意見やご提案をいただき、誠にありがとうございます。皆さまからいただいたご意見やご提案に対する回答は、町公式サイトにも掲載いたします。また、今後の町の施策や事業の推進、実行に生かしてまいります。

No	テーマ	要望・意見・提案の内容	所管課	対応方針等
1	土日の福祉相談対応 について	介護福祉関係について、平日の昼間の出来事であれば福祉課に相談できるが、土日にも結構な事案が発生するため、プロフェッショナルな方の相談窓口が欲しくなることもある。一般の企業では24時間365日受付できるサポーターを設けている。緊急の事案が発生した場合によっては、町内で駆け付けられるような体制にしていきたい。町の職員はプロなので、深夜・土日の協力について、ぜひご検討いただきたい。	福祉課	現在、福祉課では夜間、土日祝日の対応として、緊急時の連絡網を作っており、対応できる環境にしております。ご指摘いただいた件について、現時点では連絡網による対応とさせていただきたくご理解のほどお願いいたします。 また、足柄上地区でも同様の事案はあるかと思っておりますので、緊急時に対応可能な窓口の設立に向けた検討を提案してまいります。
2	木質バイオマス導入 について	資源の有効活用のために福祉センターに木質バイオマスを導入しようということだが、財政的に継続性がないとまずいと考える。松田の林業は寂しい状況であるが、資源として間伐材があっても様々なコストの中難しいのではないかと。 また、福祉センターに導入したとして、二酸化炭素削減についての効果は微々たるものではないかと。	環境上下水道課 福祉課	
3	木質バイオマス導入 について	ボイラーについては、チップではなく薪を薪ストーブのように燃料にするというイメージでよいのか。	福祉課 環境上下水道課	健康福祉センターには、薪を薪ストーブのように燃料にするボイラーを令和3年2月末に導入いたしました。 薪の材料となる樹木は、成長の過程で二酸化炭素を吸収します。薪を燃焼させる際に発生する二酸化炭素は、再び樹木に吸収されることから、二酸化炭素の量はプラスマイナスゼロ、いわゆるカーボンニュートラルとみなされています。 健康福祉センターでは、薪ボイラーを使用し、灯油の使用を削減することで、年間で、役場庁舎等の町公共施設での事務・事業によって排出される二酸化炭素の約5%にあたる約47.4tの二酸化炭素を削減することができると試算されています。 薪ボイラーが導入されることにより、燃料費については減額となりますが、メンテナンス費用等の増加が見込まれます。ただし、国の方針である2050年の二酸化炭素の排出量実質ゼロに向け、大きく貢献するものであるとともに、森林の保全や地域経済の活性化などの効果が見込まれます。 薪ボイラーの運用にあたっては、効率等を考慮し、灯油の使用量の一層の削減を図るなど費用の削減を図ってまいります。
4	木質バイオマス導入 について	イニシャルコストなどはかかるが、町内でボイラーを導入することは、導入しない場合と比較してもトントンという理解でよいのか。	福祉課 環境上下水道課	

No	テーマ	要望・意見・提案の内容	所管課	対応方針等
5	木質バイオマス導入について	健康福祉センターへのボイラーの導入について、私も見学したが、煙突が高いから煙の影響はないという安直な回答をされた。煙のことについて、地域の町屋住民などに事前説明はされているか。	福祉課 環境上下水道課	試験運転を行った時点では煙について、着火直後に微量の煙が発生しますが、その後は無煙のまま燃焼していましたので、特に影響はないものと判断しました。同等のボイラーを導入している市町村でも煙について特に苦情等の問題はないとのこと。また、健康福祉センターの近隣にお住まいの方に対し、令和2年12月に説明会を開催させていただきましたが、出席者が少人数でしたので、今後は回覧等で改めて周知徹底を図ってまいります。
6	木質バイオマス導入について	導入ありきで地域の了解を得ずに進めていくことは、地域住民のことを考えずに町だけで進めていることのように感じる。また、森林組合や寄の自治会長に説明をされたとのことだが、そういった話は議会にかける前にクロージングをしないのか。また、議会から質問はあったのか。	福祉課 環境上下水道課	議会から地域の承諾や声を聞いて進めるべきといった指摘は受けておりませんが、地域の方々に配慮して進めるべきでありました。また、健康福祉センターの近隣にお住まいの方に対し、令和2年12月に説明会を開催させていただきましたが、出席者が少人数でしたので、今後は回覧等で改めて周知徹底を図ってまいります。
7	ボランティアパークについて	ポケットパークの掃除のボランティアをやっているが、現在は3人が1週間交代で行っている。仕事内容としてはトイレの清掃と水回りの清掃、桜の葉の清掃、コキアへの朝晩の水やりをしているがすごく大変である。トイレの清掃だけなら週に3、4回行けるが、トイレの清掃をしているうちに落ち葉がどんどん落ちてくるため外回りの掃除は大変である。コキアの水やりも朝晩と言われているが、体調の悪いときもあるため中々行くのが難しい。2日程いけないと、トイレの中にトイレットペーパーがあるかの確認もしているが、その間に落ち葉で外が汚れていると、また掃除をしなければいけない。水やりも、私が水やりをしなかったせいで枯れてしまったといわれるのもつらい。ボランティアは全て頼まれたことを受け入れなければいけないのか。	観光経済課	いただいたご指摘について、令和2年12月にボランティアに携わっていただいている方との話し合いの場を設け、意見交換を実施しました。話し合いの中で、最も負担となっている落ち葉清掃については、町が実施している公園清掃の業務委託に加え、町職員が定期的に清掃を実施することとし、ボランティアの作業内容には含めないことといたしました。

No	テーマ	要望・意見・提案の内容	所管課	対応方針等
8	木質バイオマス導入	木質バイオマスについて、1市5町で手を組んで、町のごみ袋をバイオマスのものにできるとよいのではと思う。	環境上下水道課	素晴らしいご提案をいただき、ありがとうございます。 現在、南足柄市及び足柄上郡5町において、ごみ処理の広域化の検討を行っており、検討項目の一つとして、ごみ袋の検討も行っています。検討にあたっては、ごみの減量、二酸化炭素の排出抑制、マイクロプラスチック問題など、いくつか課題もありますので、今後それらの課題を踏まえた中で、本件に関する調整を行ってまいります。
9	行政のIT化について	段々地域も高齢化が進み、役員や委員の受けても少なくなっている。今後、町を背負って立つのは40～50代くらいの人であると思うが、(町の調査など)いろいろやっけていてもほとんどのものが紙ベースである。今は70代の方が主となり働いているのが実情であるが、PCだったりスマートフォンだったり若い人が対応できる仕組みづくりを早く行うことで変わってくることもあるのではないかと。 町ではIT化の総合的な計画がないが、IT化は事業を単発で進めていくと費用がかさむものであるため、できれば計画を作ってそれに対して予算取りを行うような形をとるとよいと思う。	総務課 政策推進課	頂戴いたしましたご提案のとおり、デジタル化については、様々な切り口があり、様々な課題解決や目標を達成するための一つのツールであると考えております。現在松田町には、デジタル化に特化した計画というものはございませんが、松田町第6次総合計画においても、デジタル化を課題解決、目標達成のためのツールのひとつとし、ICTやIoTを活用したまちづくりによる迅速な情報伝達や個人に応じた情報提供・共有を「実現したいまちの未来」に掲げております。 令和3年度においては、総括的な役割を担う担当課を事務分掌において明確化するとともに、デジタル化推進経費を予算計上し、タブレット端末を導入することにより、ペーパーレス化を推進し環境負荷の低減やコロナ禍における感染防止対策を図ることとしてまいります。 また、国においては、現在デジタル化に係る様々な動きがあり、その一環として令和3年9月にデジタル庁が設置される予定となっております。 今後、町としても、国の動向を注視しつつ、行政改革の中で目的・目標を見定めたいと、国・県との足並みを揃え、計画を策定し、町民サービスの向上に資するデジタル化を推進してまいります。その他、デジタル化に係る委員会の立ち上げや運営の仕方については、順次検討いたします。
10	行政のIT化について	私が役場に顔を出すと、机の上に大量の書類を載せて何の仕事をしているか疑問を感じる。縦に並べてあれば良いが、書類が積み上げてあるということは下の書類を見ないということ。そういったことも含めてIT化・電子化し、机の上をきれいにしてお仕事を効率的に進めてほしい。外向けのIT化も並行してということになると思うが、ぜひ取り組んでほしい。	総務課	毎週のノー残業デーには退庁前における日々の机周りの整理と清掃を指示しているところではありますが、今後、個々の机や所属ごとの現況をチェックするなどして適切なファイリングと文書管理を徹底します。 また、併せて事務のデジタル化を推進することでペーパーレスを図り、適切な文書保管・データ管理のもと職員の作業効率向上に取り組んでまいります。

No	テーマ	要望・意見・提案の内容	所管課	対応方針等
11	駅周辺整備事業について	<p>駅周辺事業の関連についてであるが、JR松田駅の北口、南口と別れている中、南口はだいぶ賑わいもあるが、北口は依然として静かなのでもう少し改革してほしい。北口の方も勉強会を開くといったことが資料に書いているが、その辺はどのように進めているのか。</p> <p>南口はエレベーターがついているが、北口は階段しかないので登るのが大変である。町でできるわけではないと思うが、JRと検討してほしい。</p>	まちづくり課	<p>JR松田駅北口の周辺整備は、将来的にどのように新松田駅と物理的に連携が図れるか検討している段階であり、新松田駅周辺整備の進展とともに必要に応じて検討させていただきたいと考えています。なお、現在、JR松田駅の乗降客は約6千人程度であり、その大半が南口を利用している状況です。さらに、同駅発のふじさん号(1日当たり3回)の乗降客について鉄道事業者を確認したところ、全ての便で数名の利用であります。</p> <p>一般的に駅におけるエレベーターを増設する場合、その負担は国及び地方公共団体が負担することとなるため、今後の新松田駅周辺の整備に応じた利用状況を見ながら、必要に応じて鉄道事業者と協議をしていきたいと考えております。</p>
12	駅周辺整備事業について	<p>松田駅は、新宿から御殿場駅まで行くふじさん号が通っているのでそれを活かしてほしい。ふじさん号の利用客がどのくらいいるか、南口だと降りてエレベーターに乗って小田原や東京に新松田駅を使って行くが、松田駅の北口にもエレベーター設置の交渉をしてほしい。また、桜まつりのときは北口にバスが止まるのでにぎやかになるが、JRを使っているのはどのくらいの人がいるのか教えていただきたい。</p>	政策推進課	<p>JR東海に確認したところ、JR松田駅全体の年間乗降者数については、令和元年度は1日平均6,470人、年間2,367,988人となっておりますが、「ふじさん号」の詳細な人数等の利用状況については、経営情報のため公開しておらず確認できませんでしたが、数名の利用となっております。また、桜まつり期間中の月別の利用者数についても、経営情報であるため公開できないとのことでしたが、令和元年度第22回まつだ桜まつり(令和2年2月8日～3月1日)の来場者内訳を参考としてお知らせいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR松田駅発バス利用者 21,315人</li> <li>・徒歩来場者 49,918人</li> <li>・まつだ桜まつり来場者計 107,702人</li> </ul> <p>なお、JR松田駅北口へのエレベーター設置については、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」により、設置にあたって事業者だけでなく、国及び地方自治体が応分の負担をすることとされています。</p> <p>参考となりますが、平成22年度にJR松田駅南口に設置をした際は、総工事費1億400万円のうち1,666万6千円(うち833万3千円が国庫補助)を町が負担しています。エレベーター設置にあたっては町の財政状況にも大きく影響し、町単独での負担は難しいため、国や県、JRと連携しながら駅利用者の需要等を検証したうえで、慎重に検討してまいります。</p>
13	組織の見直しについて	<p>組織の見直しは、人口の推移を考えてどれだけの適正人員で町の運営をしていくかを考える根本になるものである。これについて、庁内でプロジェクトを立ち上げているかどうかかわからないが、新型コロナなど新しい問題に直面している中難しいとは思いますが、どれだけの人口を目指して組織作りをしているのかという根幹に関わる町政の運営について取り組んでいるのか。</p>	総務課	<p>事務の効率化や町民の利便性の向上を図るため、令和3年度より町組織の機構改革を段階的に行います。複数の課に跨るような関連した事務の集約を行い、また、既存の業務をより専門性の高い課に割り振るなど、課の事務分掌の適性化を推進したうえで必要な人員配置を検討します。人口減少も考慮しながら中長期的な視点に立ち、会計年度任用職員を含めた人員管理を行ってまいります。</p>